

肉製品、乳製品製造業における荷姿の物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	12~13	充填室内において、金属製のタンク内へ約10kgのコーヒー牛乳の入った金属製の乳缶を持ち上げて注ぎ入れようとした際、勢い余って、タンク側面と乳缶の底部の間に、抱えていた右手小指を挟み、右手小指第二関節やや上部が1cm裂けた。	29	50~99
2	14~15	パレットを積み上げている作業場でパレットの上の商品（鶏肉）を下へ降ろすため、パレットの上に上がり、5kg程の商品を持ったまま、高さ2m位あるパレットの上から飛び降りた。その時、かかとから着地し、足に痛みを感じた。	24	1~9
3	2~3	被災者はチーズの入ったトレーを10段積み、台車で運搬する際に、ケースのバランスが崩れそうになったため、ケースを支えようとして右手を打ちつけてしまい、小指を負傷した。	42	100~299
3	14~15	原料冷蔵庫入口前にてサンテナを2山同時に片づけている時に、人を避けようとしてサンテナに躓き胸を強打した。	53	50~99
4	9~10	調合室の架台上で、原材料をパレットから台の上に載せ替える作業において、10kgの袋を持ち上げて移動しようとした時、急激に腰に痛みを感じた。原材料を所定の場所に下ろしたあと、そのまま動けなくなった。	37	100~299
4	17~18	廃棄物をフォークリフトで所定のゴミ置場まで運搬し、高さ145cmの運搬用コンテナに投入しようとコンテナ上部の淵（幅8cm）に登って作業していたとき、バランスを崩して地面に落下した。直後巡回中の従業員に発見され、本人の状態を確認したところ意識ははっきりしており、体が動かないと本人から話があり救急搬送された。作業時にヘルメットは着用していたが紐をしておらず、また、安全靴を履	61	50~99

		いていたが、サンダル履の状態であった。		
5	11~ 12	豚肉の加工場内で、両手で原料の入っているタンクを引っ張っていたところ蓋が外れて、そのはずみで積んであったプラスチック製のカゴにぶつかり、腰と脇腹を強く打した。当初は少しの痛みだったが、痛みが増し、立ち上がる時に激痛が生じた。	64	30 ~ 49
6	15~ 16	当社処理場ホーム下にて、鶏の入ったラック（赤鳥8羽入×14マス）がいくつか倒れてしまった為、作業員4人でラックを立てようとして、80cm位まで立てかけた時、重さに負け倒れてしまい、避けようとしたが避けきれず、ラック（300kg位）の枠が左大腿部に当たり、その後、左足にも当たり負傷した。	49	50 ~ 99
11	13~ 14	会社工場内にて、豚枝（重さ約90kg）を二人で担ぎトラックに積み込む作業中、豚枝を担ごうとした際に豚枝（骨側）が予想以上に重く右肩に乗ってしまい痛めてしまった。	29	50 ~ 99
12	12~13	トラックからみかんを積んだパレットを3台降ろしていた。最後の3台目を降ろす際、リフトが上がりきっていなかったため、トラックのハッチとリフトの間に段差ができ、パレットを引き込んだときにパレットが傾いた。一時は支えたが重量に耐えられず、パレットの下敷きとなった。	42	300 ~ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html